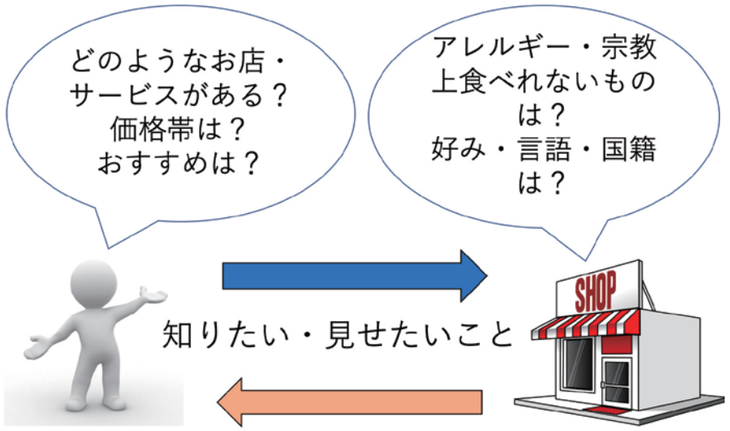
2
和洋折衷

Tech Tech

「ピッ」で解決!!
～海外旅行の不安～

私たちが提案するのはFelicaを利用した「観光客とお店側のコミュニケーションシステム」です。コミュニケーションと言っても「必要な情報」だけに絞ってあるのがポイントです。海外旅行者が見ず知らずの土地に行く際には、アレルギーや宗教様式など、様々な不安を抱えて旅行します。一方、おもてなしをするお店側も、その旅行者がどんなアレルギーを持ち、どんな宗教的制限を持っているかが気になります。その「事前に知っておきたい情報」をコミュニケーションしながら、全体としてマッシュアップしていくのがこのシステムです。

互いに必要な情報を共有する



プロジェクトメンバー

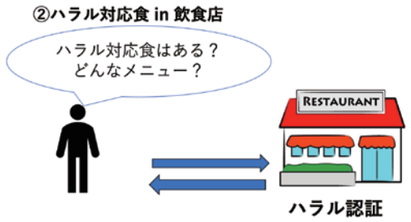
芝浦工業大学建築学部２年	島野 洸
芝浦工業大学デザイン工学部１年	蒲 朋恵
香川大学工学部２年	森本 裕介
香川大学農学部２年	宮垣 綾奈

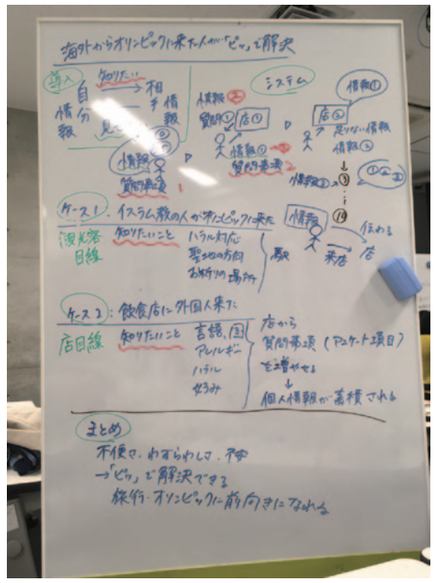
Insight　「ピッ！」で終わる体験

私たちは今回、様々な箇所をフィールドワークで巡る中で地方と都心の違いを色々と発見しました。その中でも、最も驚いた発見は「東京では香川などの地方と違い、交通系ＩＣカードが発達しており、移動から買い物まであらゆるものがカードを『ピッ』とかざすことで済ませられるができること」です。

そこで、この「ピッ！」で終われる驚きを「他にも活かせないか？」ということを考えることにしました。会計やポイントなどのシステムは既に世の中に沢山あります。でも、「ピッ」で終われる内容は果たしてそれだけなのでしょうか？ということを色々と考えていく中で、そもそもICカードの機能というのは「コミュニケーションする機能」であることに気がついたのです。この、コミュニケーションが「ピッ」で完結する。この点をより活かすことにしました。

イスラム教徒が東京オリンピックに来た





Outcomes　ICカードを「不安」のコミュニケーションツールとして利用

私たちが最終的に着目したのは「不安」です。旅行者そして旅行者を受け入れる立場の人間、この両者に共通しているのは「大丈夫かな？」という不安です。それは、アレルギーの問題であったり、ハラルのような宗教的制限であったり、言葉の問題であったり、色々とあります。これらを毎回伝えるのではなく、ICカードに”蓄積していこう”というのが今回の提案のポイントです。「不安」は事前にすべて把握できません。多くはその場で発覚します。そこで、お店側はICカードリーダー側に「聞きたいこと」を蓄積します。一方、旅行者は「気になること」を入力します。ここに未入力があった場合、現場で入力するとともにお店側には「質問項目」、旅行者側には「回答」が蓄積されます。これにより、お店側も旅行者側も質問・回答がより充実したものになっていきます。これが提案のポイントです。